

第4回西京区基本計画策定審議会摘録

日時：平成22年7月28日（水）

午後3時～午後4時

場所：西京区役所 2階 大会議室

■1 開会

区長： 本日は、お忙しい中、そして、暑い中、御出席いただき御礼申し上げる。

また、日頃は、区政の推進に御協力いただき、御礼申し上げる。

前回、3月に開催した審議会では、皆様からの御意見を基に作成した、基本計画の素案について御審議いただき、たくさんの御意見を頂戴した。

今回は、前回の御意見、さらには、各種団体からの御意見を基に作成した素案について、御審議いただきたい。

併せて、この基本計画を区民の方に分かりやすくお知らせするため、また、西京区の将来の姿を分かりやすく表現するためのキャッチフレーズについても、御審議いただきたいと考えている。

計画の策定に当たっては、徹底した区民参加の下、進めていきたいと考えている。もう少しストレートに申し上げると、新たな計画は、区民の方々自ら作っていただくものであることを御理解いただきたい。

皆様からの御意見を頂戴し、さらに、磨きのかかった計画としていきたいと考えているので、御協力をお願い申し上げる。

■2 議題

【西京区基本計画の素案について】

事務局： 資料1-1「西京区基本計画＜素案＞」及び資料1-2「「新たな西京区基本計画」や「西京区」のイメージを表す標語・キャッチフレーズ検討資料」について説明（省略）

板倉議長： お配りしている素案については、前回皆さんから出された意見を可能な限り反映させたものになっている。

素案全体はもちろんのこと、特に、キャッチフレーズについて意見交換をしていきたい。

荒木委員： 私のキャッチフレーズの案は、資料1-2の1番目である。「豊かな縁」というのは、西京区の地域特性を表現したつもりで、豊かな山の縁と清き水の流れを象徴して、「豊かな縁」とした。

「育まれた」は、自然との共存を意味し、私たちの暮らしが自然環境の上に成り立つことを再認識するという意味合いを持たせている。

「元気なまち」というのは、新しいまちづくりをイメージし、これから立ち上がりうとする住民自治と、それを支える地域住民の健康を願っている。

これらの意味をこめて、「豊かな縁に育まれた元気なまち西京」とした。

板倉議長： 荒木委員から、自らの案について御紹介いただいたが、他の委員の案でも、自分の琴線に触れるようなものがあれば言及いただきたい。キャッチフレーズだけでなく、素案全体についてでも構わないので、意見をお願いしたい。

栗津委員： 審議会の委員に就任したばかりでよく分からない部分もあるが、「豊かな緑」、「自然」というのは西京区に最も適していると感じられる。「豊かな緑」や「自然」、「水」、「川」といった文言が入っていた方がよいのではないか。

井上愛子： 資料1－2の4番目と5番目の案については、西京区には、輝かしい未来があり、そこ委員に温もりの愛がある、といった雰囲気を表している。

どこのまちを歩いても子どもたちが笑顔で触れ合っている、そういった雰囲気もよいと思う。

井上恵津子： 大枝の柿、たけのこなど、これらは日本一おいしくて有名である。そういった意味も含委員めて「緑」という言葉は大切であり、「竹の色」といった形でイメージアップにもつながればよいと思う。

大島委員： 委員の案と事務局の案を比較すると、事務局の案は、素っ気無い感じがするが、委員の案は、思いのようなものが伝わって来る。投票などの方法により、決定をしてもよいのではないかと思う。

大藪委員： 私は、大枝に生まれ育ち、現在も住んでいる。西京区の特徴は、「緑」と「自然」が豊かなので、それらの言葉を入れるべきだと思う。

今後、開発が進んでいく中で、自然や緑を残してもらいたいという意味もこめて、「緑」や「自然」という言葉を盛り込んだキャッチフレーズが良いと考える。

片山委員： 皆さんの案を見せてもらい、良いものをお考えだと感じた。「自然を大切にする西京区」というイメージを前面に出しながら、「人というのは自然の中の一部である」というイメージで標語ができればよいと思った。

川村委員： 現行計画のキャッチフレーズである「新しい西山文化の創造をめざして」にこだわり過ぎて、案を作ることができなかった。

私は、西京区に住んで30年になるが、「自然」と「緑」は自分にとって身近なものであり、かけがえのないものであることから、後世に伝えたいという思いがあるが、そういったことをまとめするのが大変で、いまだに悩んでいる。

木村委員： 「緑」と「自然」が西京区にとって一番良いキャッチフレーズだと思う。

また、「西山文化」という文言についても入れていくべきではないか。

小石委員： 「地域コミュニティの更なる活性化」ということは難しいことであるが、今後10年間の中で一番大事なことではないかと感じている。そういったことを踏まえたキャッチフレーズになればと思っている。

土江田委員： 現在のキャッチフレーズは高度で、なかなか深みがあると思っている。「西山文化」という言葉もそうであるが、「創造をめざして」という部分が、自分たちが関わっていく様子を含んでおり、素晴らしいものだと思っている。

皆さんがあっしゃるように、「水」や「緑」、そして、それらを含む「自然」という言葉が次期計画のキャッチフレーズには、入った方がよいと思う。

富阪委員： 「自然」というのは一番大事なものだと思っている。

また、「歴史」にも大変深い重みがあり、「西山文化」の流れの中に入るのでないかと思う。素晴らしい案もたくさん出されているため、これらの中から選んでもらったらいのではないか。

林 委員： 「人とのつながりを大切に」という趣旨で案を考えたが、「縁」も多く、川にはホタルが飛んでいる自分の周りの環境もキャッチフレーズに入れたいと思った。

皆さんの案を見せてもらい、「萌える縁に子の笑顔」や「縁なす竹林」といった表現は素晴らしいフレーズだと感じた。一つの案を選ぶのもよいが、皆さんのフレーズをつなげて決めるのもよいのではないかと思う。

藤本委員： 「西山文化」という言葉が、この地域には相応しいと思うので、この言葉を是非残してほしい。

また、今、子どもたちに未来都市を描かせると、「畠」を描いたりする。やはり、この10年間での変化を感じるので、「縁」といった言葉も入れていけばと思う。

安枝委員： 「文化」という言葉がキーワードになると思う。西京区の場合、居住の歴史が長い地域から、ニュータウンのように20年程度しか経過していない地域まで様々な地域が混在している。居住の歴史が長い地域では、これまでの文化を今後どのようにかたちで継承するのか、新しい地域では、これから文化を育んでもらいたい、というメッセージも込めて「文化」という言葉が良いと思う。

山下委員： 現行計画との継続性という観点から、「西山文化」という言葉があった方がよいのではないかと思う。

事務局が作成した案については、「絆」という言葉が目立つ気がする。

素案についてであるが、体育振興会の代表として出席しているという立場から、資料1-1、23ページ、「市民スポーツの振興」の中の13番の取組について、体育振興会連合会と体育指導委員会は、車の両輪の如く市民スポーツを推進している団体であるので、体育振興会連合会という言葉も加えていただきたい。

板倉議長： 修正する方向で進めていきたいと思う。

山名委員： 皆さんから出された24のキャッチフレーズ案については、それぞれに味があって良いと思う。これらの案を基に作成された事務局案については、様々な文章を組み立てたために、本来の個性や思いが消されてしまっていると思う。

あれもこれもとなると焦点がぼやけてしまう。皆さんの意見では、「縁」や「自然」、「文化」という意見が多いようであり、それらに特化して、思いのこもった文章にすべきではないか。アンケートなどで意見が多いものだけをくっつけただけでは、西京区らしさが感じられないものになる気がした。

山本委員： 私は、6つの案を出させていただいた。作成する際に考えたことは、西京区のどの学区にも共通することを盛り込むということ。極端な話で言うと、自然がない学区や縁がない学区もある。すべての学区に当てはまるキャッチフレーズが良いのではないかと思う。

もう1点は、「自然」や「安心安全」、「出会い」など、どういうことを基準に10年間取り組んでいくのかによってキーワードが異なってくると思う。何か方向性を持ってキャッチフレーズを作成した方がインパクトがあると思う。

板倉議長： キャッチフレーズの検討はなかなか難しい。皆さんの意見を全て入れてしまうと、キャッチフレーズか何なのか分からぬくらい長い文章になってしまふ。どれを切って、どれを入れるのかというのも非常に難しい。

事務局案の中の「絆」という言葉については、私は良い意味で引っ掛けた。

来週から学生を連れて水俣市に行くが、水俣市も「絆」を非常に大切にしているまちである。水俣市では「もやい直し」という言葉を使っている。「もやい」とは漁船をつなぐものであるが、人間関係を元に戻すという思いをこめているようである。

水俣市は環境先進都市として、ナンバー1にもなった。マイナスのイメージをプラスにし、人間関係を回復するため、水俣市はスローガンを「もやい直し」としており、私自身のスローガンにもなっている。おそらく事務局の方も、同様の趣旨で、「人と人の絆」という言葉を入れたかったようであるが、委員の皆さんからはあまり賛成の意見がなかったように思う。

菊池副議長： 他の区の表現を見てみると、非常に長い表現になっている区もあるし、非常に短い表現になっている区もある。キャッチフレーズは長ければ良いと言うものではない。長いほど良くないし、短すぎても良くない。ちょうど良い長さが求められる。

「文化」や「緑」、「水」といった言葉は、どこの地域でも使われている言葉である。「水」や「自然」、「文化」はみんなが好きな表現だと思う。

キャッチフレーズではないが、俳句で「柿食えば鐘が鳴るなり法隆寺」という名句がある。今でも日本人の心を引き付けている。これを聞くとすぐに「奈良」が連想される。そういうキャッチフレーズを皆さんで考えよう、という趣旨でキャッチフレーズの案を出し合った経緯がある。

例えば、西京区には嵐山があるが、一般的には借景で、右京区にあるようなイメージになってしまっており残念である。あくまで例であるが、「嵐山」というような言葉を入れば、すなわち「西京区である」という形になれば良いと思う。

事務局案の「絆」という言葉については、ちょっと古いのではないかと思っている。

山本委員： 「絆」については、私も入れた文言である。

板倉議長： 人と人のつながりということは一番大事なことであり、西京区にいると特にそのことを感じる。策定支援チームの方で意見などがあれば、発言してもらいたい。

鈴木： 西京区の特徴である、「緑」や「自然」、「若い」というイメージと「歴史」などを組み合わせて、よい部分は残していく、引き継いでいくといったことも、同時にイメージできるキャッチフレーズになればよいと思う。

吉川： まちづくり推進課で、昨年度から始めた「まちづくりリーダー塾」を担当しているが、そこに御参加いただいている方や、各自治会の会長の方と話をしていると、日頃から自分たちのまちについて、大変熱心に考えておられると感じている。

自治会活動の活発化の源となっている「人ととのつながり」を大事にできればという思いを持って、計画策定に携わっていきたい。

山本委員： どうしても入れたい3つくらいの単語を入れて、最後に「西京区」と入れる形はどうか。

現行計画の「新しい西山文化の創造をめざして」については、様々な会議に携わっている方は理解できると思うが、会議に携わっていない一般の区民の方は、「西山文化」という言葉をなかなか理解できないのではないか。子どもも含め、全ての区民が「なるほど」と理解できるようなものがよいと思う。だれでも分かるフレーズが良い。

小石委員： キャッチフレーズは非常に難しいと思う。

私自身もよく考えて、資料1-2の14番の案を出させていただいた。

直接的な言葉ではなく、10年間を見据えたキャッチフレーズということを考えると、抽象的な言葉であっても、あらゆることを含んだものにしていく必要があるのではないかと思う。

「すこやか」という言葉には、みなさんが健康で様々なことに取り組めるという意味も含めた。また、「みどりかがやく」という言葉には、緑も自然も含めたうえで、単なる自然の緑だけではない意味も考え、まちづくりをどんどん進めていかなければならないという思いをこめた。

極端に決め付けるようなものではなく、あらゆることに複眼的にとらえられるようなものの方がよいのではないかと思う。

菊池副議長： キャッチフレーズは、説明しなければならないものでは困る。説明しなければならないようではキャッチフレーズとは言えない。一瞥して感銘するものが望ましい。

板倉議長： 議論が一定の方向に焦点が当たっていくようであれば、絞り込んでいこうと考えていたが、短くするか、長くするかについても意見が分かれている。

そこで、キャッチフレーズについては、議長一任としていただき、今後、副議長と事務局の三者で話し合いをし、本日の皆さんの意見や資料1-2の皆さんの案も踏まえて決定していくということでよいか。

各委員：（異議なしの発言）

板倉議長： それでは、本日の皆さんの意見も踏まえて、副議長及び事務局と話し合いを進めさせていただき、キャッチフレーズが決定次第、皆さんにお知らせしたい。

【パブリック・コメントの実施について】

事務局： 資料2-1パブリック・コメントの実施について（案）及び資料2-2西京区基本計画
＜素案＞概要版について説明

板倉議長： 最近では、より多くの方の意見を反映させるため、パブリック・コメントという方法が採られることが多くなってきているが、何か意見はないか。

意見がないようであれば、先程の御意見を踏まえ、素案を修正するとともに、原案どおりパブリック・コメントを実施するということでよいか。

各委員：（拍手により承認）

【今後のスケジュールについて】

事務局： 資料3「今後のスケジュール（案）」について説明（省略）

大島委員： 基本計画以外に実施計画は策定するのか。基本計画では、おおまかな方針などについて記載されているが、実施計画で、個々の取組についてだけでなく、スケジュールのようなものを策定するのか。策定されないのであれば、基本計画の段階で気が付いたことは出していくべきではないかと思っている。

事務局： 新たな基本計画には、各取組の詳細な内容についてまで記載されている。そのため、スケジュールなども含めて、今後、計画の推進体制について検討していく中で、一緒に協議していきたい。

また、毎年作成している区の運営方針では、基本計画のどの部分を重点的に取り組んでいくかを定めており、こういったものも実施計画の1つとして位置付けていくこともできると考えている。

板倉議長： 基本計画はかなり細かい内容となっているが、大島委員からの指摘にあったように、具体的な行動計画についても提案していかなければ「絵に描いた餅」となってしまうので、事務局においても、検討をよろしくお願ひしたい。

藤本委員： 素案に出てくる「西京塾」や「にしきょう・ねっと」、「世界一美しいまち・京都」などの固有名詞等について解説する資料は、別に用意されているのか。

事務局： 現段階では作成していないが、最終案に向け、用語集を巻末に付けるなどの方法を考えていきたい。

藤本委員： パブリック・コメントの段階ではどうなるのか。

事務局： 検討させていただきたい。

板倉議長： 京都市の計画では、インターネットで自由に書き込みができる、それに対して事務局が返答をするなどの手法を探っている。

次回は、パブリック・コメントの結果及びそれを踏まえての最終案の作成に向けた審議を行っていきたい。

■3 閉会

菊池副議長： 本日は大変熱心に御審議いただき、感謝申し上げる。

皆さん方には、豊富な知識と御経験に基づき、この間、数多くのアイデアを出していただき、おかげをもって、新たな西京区基本計画の素案の作成まで、こぎつけることができた。10年後の西京区の姿、また10年のうちに取り組まなければならないことが、明らかになってきたのではないかと思う。

新たな計画の策定に向けた取組も、パブリック・コメントが終わると、いよいよ大詰めを迎える。最終案の作成に向け、ますます皆さん方のお力を借りる必要がある。私自身も、これから西京区のまちの進むべき方向性を定める、この計画の策定に全力で取り組んでいく所存である。

皆さん方におかれても、より一層の御理解と御協力を賜るようお願いし、私の挨拶とさせていただく。

事務局： 以上で、第4回西京区基本計画策定審議会を閉会する。